

黒石市立図書館運営計画及び  
第3次黒石市子ども読書活動推進計画（案）  
に対する意見募集結果について

黒石市立図書館運営計画及び第3次黒石市子ども読書活動推進計画の策定にあたって市が実施した意見募集に対し、貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。いただいた意見の概要とそれに対する市の考え方は下記のとおりです。

記

1 意見募集期間

令和3年12月28日から令和4年2月4日まで

2 募集対象

- ・市内に住所を有する人
- ・市内に事務所または事業所を有する個人および法人その他の団体
- ・市内に通勤または通学する人

2 募集方法

広報くろいし及び市のホームページに募集に関する情報を掲載し、計画案を市社会教育課、スポカルイン黒石図書コーナー、市のホームページにおいて公表、閲覧を実施しました。

意見提出は、所定の用紙または任意様式に、件名、氏名、住所（市外の方は通勤・通学先も記入）、連絡先を明記を条件とし、提出方法は、市社会教育課に持参または郵送、ファクシミリ、Eメールで送付のいずれかの方法によることとしました。

3 提出された意見

2人の方から延べ13件の意見をいただきました。

（提出された意見の内容とそれに対する市の考え方）

No.	意見の概要	市の考え方
1	交通機関の整備や学生の長期休暇期に合わせてバスの運行回数を増やすなど来館しやすい環境を整えてほしい。 公共バスやぷらっと号の停留所を図書館付近に設置。駐輪場の設置等。 観光客用の大型バスの駐車場や自転車レンタル等。	市では、効率的で持続可能な公共交通体系の構築のため、路線バスやぷらっと号を含めた公共交通ネットワーク全体を見直す予定としています。 見直すに当たって、市立図書館は、新たな市街地の拠点としてバス路線が経由する施設と位置付けており、市立図書館付近へのバス停留所の設置を検討しています。 また、市立図書館の敷地内には駐輪場と障がい者等のための優先駐車場を設置いたします。 大型バスにつきましては、市役所の駐車場で受入れを行っております。 自転車レンタル等につきましては、黒石駅前にある黒石観光協会黒石観光案内所にてレンタサイクル事業（冬期間を除く。）が行われております。

2	<p>館内に意見箱の設置。→スーパーで見かけるように、それに対する回答も館内に掲示してもらうことで、利用者の意見を反映した施設になり、満足が得られる施設になると考えます。</p> <p>様々な意見に対して、どのように対応したかがわかれば、すぐに対応できない問題に関しても理解が得られると思うので、気軽に提案、回答が得られる仕組みを作ればよいと思います。</p>	<p>館内にアンケート用紙を設置し、利用者の意見を集める予定です。</p> <p>寄せられたご意見の掲示につきましては、内容のまとめ方や公表方法について検討してまいります。</p>
3	<p>障害者の就労支援の場など様々な役割を担う施設になればよい。</p>	<p>地域の情報拠点として様々な情報を提供できるよう、連携先を増やすなどの努力を重ねてまいります。</p>
4	<p>専任職員、司書、非常勤・臨時職員数、蔵書冊数、図書年間購入冊数等について具体的な数値を提示してほしい。</p>	<p>平成13年に告示された「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」は平成24年に全部改正されておりますが、基準となる数値は定められておりません。</p> <p>日本図書館協会が独自の基準を設けていることは承知しておりますが、公共施設の運営は自治体の立地や財政状況によって異なるものです。</p> <p>人員配置や図書購入冊数につきましては、本市の図書館運営に必要な分を措置してまいります。</p>
5	<p>公立図書館での実務経験がある人物を外部から招いて館長にするべき。</p>	<p>図書館長には基本構想・基本計画に掲げる基本理念やサービスを実現できることに加えて、市の実情を踏まえた組織運営ができるような人材を配置してまいります。</p>
6	<p>司書はきちんと司書枠で採用すべき。</p>	<p>現在、職員1名が資格取得しており、今後も資格取得者を増やすこととしております。</p> <p>また、職員以外にも県立図書館や地元の司書資格保有者に協力を仰ぎながら、運営してまいります。</p>
7	<p>図書館の書籍は、地元の書店から購入するべきである。</p>	<p>現在も主に地元書店から購入しており、今後も続けてまいります。</p>
8	<p>閉館が18:00では、仕事帰りの人が利用しにくいのでは。</p>	<p>本計画案では、計画策定会議にて議論を行い、市民になじみのあるスポカルイン黒石図書コーナーと同じ時間帯としました。</p> <p>ただし、図書館の利用促進のため、一時的に開館時間を延長し、見直しを図ることも検討してまいります。</p>

9	計画最終年の R8 年で、個人への貸し出し冊数が 51,800 冊、来館者数を 36,300 人に設定していますが、再検討してみてもよいのではないのでしょうか。	現在の目標は、この度の図書館整備の基となっている黒石市中心市街地活性化基本計画において掲げた目標値と整合性を図ったものとしております。本市において初の図書館整備であり、図書館利用の習慣が普及・定着するのはこれからだと考えております。図書館の利用状況については毎年分析を行い、対応を見直ししてまいります。
10	2月2日現在、御幸公園は雪捨て場のようになっていて、20台ちょっとしか駐車できず、開館すると確実に駐車スペースの不足が懸念されます。	現在、御幸公園内のアスファルト舗装部分に47台駐車可能となっております。駐車スペースがより必要となった場合は、アスファルト舗装以外の部分につきましても除雪作業を行い、駐車スペースを確保する対応を行ってまいります。
11	地域に図書館の分館的な施設があれば、高齢者が利用し、集まってくる同士での交流や異年齢での交流も図られ、引きこもり防止に大きな効果が見込まれる。	本市は他市町村に比べ公民館と地区コミュニティが発達していますので、まずは公民館を中心に読書活動の推進を図りつつ、福祉施設など連携先を増やしたいと考えております。
12	図書館が、積極的に学校図書館の支援に入って、子どもたちが読書活動に活発に取り組み、自ら学ぶ喜びを実感できるようにしてほしい。	学校における人員配置は読書だけでなく教育環境全体を考慮して行われております。今後は市立図書館の司書を中心に、各学校の司書教諭やボランティア、児童生徒、保護者とも連携しながら子どもの読書活動推進を図ってまいります。
13	プレオープンイベントとして、ワークショップなどを行って、市民の意識を盛り上げていただきたい。	市民の意識向上やボランティアのスキルアップのための、研修会等の開催を検討してまいります。

#### 4 ご意見全文（原文のまま記載しています）

意見①
<p>○原案 8 ページ～「回遊性向上の環境づくり」において…公共交通との連携を図りながら…</p> <p>○原案 11 ページ～中段に、人口減少と少子化が進んだことにより…</p> <p>○原案 27 ページ～令和 8 年の入館目標人数として 36300 人を目標、とあり。</p> <p>以上について、</p> <p>全国的に見ても黒石の人口も増加に転じることは難しい事と考えます。</p> <p>多くの方に来館して頂くために、交通機関の整備や学生の長期休暇に合わせてバスの運行回数を増やすなど来館しやすい環境を整えてほしいです。</p> <p>公共バスやぷらっと号の停留所を図書館付近に設置。駐輪場の設置等。</p> <p>観光客用の大型バスの駐車場や自転車レンタル等。</p> <p>館内に意見箱の設置。→スーパーで見かけるように、それに対する回答も館内に掲示してもらうことで、利用者の意見を反映した施設になり、満足が得られる施設に</p>

なると考えます。  
様々な意見に対して、どのように対応したかがわかれば、すぐに対応できない問題に関しても理解が得られると思うので、気軽に提案、回答が得られる仕組みを作ればよいと思います。  
障害者の就労支援の場など様々な役割を担う施設になればよいと感じました。

## 意見②

### I 黒石市立図書館運営計画

#### 5 図書館の管理運営について

##### (1) 組織、(4) 図書館資料の収集と保存 (p. 4)

・ここで取り上げられるべき専任職員、司書、非常勤・臨時職員数、蔵書冊数、図書年間購入冊数等については、①文科省が告示している「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準について」や日本図書館協会による②「公立図書館の任務と目標」③「豊かな文字・活字文化の享受と環境整備 図書館からの政策提言」などに示されているので、それらを参照して、ぜひ具体的な数値を提示してほしいと思います。ちなみに③には、「市町村立図書館の運営経費（人件費を含む図書館年間諸経費）は、市町村の普通会計歳出総額の1%以上を措置し、資料費はその20%（普通会計歳出総額の0.2%）を充てること」、「公立図書館に司書資格を備えた専任の図書館長を配置すること」などが示されています。黒石市立図書館建設に当たっては「なぜいま図書館を建設しなければならないのか？」という疑問の声も多数聞かれます。図書館長はトップとして、「何のために今、黒石に図書館が必要なのか」「図書館とはどういうものなのか」「図書館は私たちの生活にどのように役立てることができるのか」「図書館を活用して、こんな黒石市を作りたい」というビジョン等を積極的にPRしていかなければならないのですから、当然実務経験豊かな高い見識のある人物でないと務まりません。①においても、「図書館長は、地方公共団体の主張・行政部局や議会に対する積極的な働きかけを行うとともに、図書館に対する社会の多様なニーズや行政の施策と図書館サービスを結びつけることができるような配慮を行うべきである」と明記しています。ですから、公立図書館での実務経験がある人物を外部から招いて館長にするべきだと思います。青森県立図書館の元館長には、図書館運営には司書としての専門誌知識等が必須だと、館長就任後に講習を受講し、自ら司書資格を取得して、非常に充実した素晴らしい運営に結び付けた方もおられます。市役所の職員が付け焼刃で勉強した程度では、満足な説明も調整も運営もできず、スタートでつまずきかねません。そんなことがあってはいけないと考えます。

##### (2) 人材育成 (p. 4)

・司書は専門職です。職員を研修会に参加させて司書資格を取得させることも必要ですが、開館するにあたって、十分な数の司書がいないと、レファレンスを始め、現在の図書館に要求される高度な業務に対応できず、利用者が失望してしまいます。そのためにも、司書はきちんと司書枠で採用すべきだと思います。

#### (6) 図書館システム (p.5)

・「スポカルイン図書コーナーで使用していた図書館システムを継続使用する」、ということですが、市立図書館の完成予定図にはICタグを利用した図書館ゲートが設置してあり、令和2年12月には、スポカルイン図書コーナーの書籍にICタグをとりつけるという業務を、**㈱図書館流通センター**が3,410,000円で落札していました。しかし、この運営計画ではまったく触れられておりませんし、策定会議でも一度も話題にならなかったということですので、「**ICタグを用いた図書館ゲートを導入しない**」という前提で述べさせていただきます。とすると、図書館への図書の納入にICタグを装着できる、という縛りがなくなりますので、現在もスポカルイン図書コーナーに納入している地元の書店から書籍を購入することに何の問題もないはずで、鳥取県が図書館先進県となる基礎を作った前鳥取県知事で総務相も務めた片山善博氏は、公立図書館の図書の購入について、以下のように述べています。

「公立図書館は本来なら**地元の書店を通して購入するのが望ましい**。例えば、鳥取県立図書館では毎年度およそ1億円の予算で書跡や資料を購入しているが、そのほとんどは地元の書店を通じてである。それは単に県内の書店の売り上げを増やすために買い取っているのではない。いくつかの書店から、県立図書館として保存するにふさわしい本を提示してもらい、それらを参考に司書と書店とが協議しながら購入する本を決め、それを提案した書店から購入する仕組みを採っている。いわば、司書と県内の書店とがそれぞれの知見を出し合って選書を行い、県立図書館の質の向上を図っている、そうした両者の切磋琢磨が、結果として県内書店を支えることにもつながっているのである。(書籍の流通業に携わっている中央の業者が独占的に図書の納入をしている)市の図書館政策を地域経済の面から点検すると、**地元書店の事業機会を縮退させ、代わりに域外の事業者に優越的にビジネスチャンスを与え、その収益を地元から域外に流出させることに寄与しているといえる。地域経済が元気を失っている地域においては、どうかしてお金を域外に流出させないことに意を用いるのが合理的なのに、全く逆の結果をもたらすことになっている。**」黒石市立図書館の書籍は、以上の理由で、**地元の書店から購入するべきである**と考えます。千葉県柏市図書館を例にとると、購入業者の選定基準について「柏市に事業所又は店舗を有しているものであって、柏市の入札参加者資格者名簿に記載されているもの」となっています。もしもすでに方針が変わって、地元書店からの購入が決定しているのであれば、お許しください。

#### (10) 開館時間 (p.5~6)

・閉館が18:00では、仕事帰りの人が利用しにくいのではないのでしょうか。可能であれば、勤務シフトを工夫して、19:00、できれば20:00まで開館できれば利用者も助かると思います。その代わりに、他の図書館でおこなわれているように、土日祝日は17:00で閉館する、というようなこともできると思うので、検討していただ

ればと思います。

#### (17) 重要評価指標（KPI）の設定（p.7）

・運営計画最終年のR8年で、個人への貸し出し冊数が51,800冊となっていますが、これは黒石市の人口一人当たり1.6冊です。最終年でこれだけというのはちょっと控えめすぎる数値ではないでしょうか。前述の①の目標基準例でみると、人口3万人までの規模だと、一人当たりの貸し出し冊数は13冊です。また、R8年の来館者数を36,300人に設定していますが、黒石市と同じ2022年度に開館予定の宮城県富谷市民図書館は人口52,000人で、開館翌年度の来館者を10万人、登録率を25%、貸出密度（人口一人当たりの貸出点数）を6点としています。この来館者数を黒石市の人口33,000人にあてはめると、63,400人となります。前述の①②③を参照してKPIに上げた数値を再検討してみてもよいのではないのでしょうか。高い目標を掲げて、図書館に関わる多くの部署や人々が、それをクリアーするために力を合わせて工夫し、盛り上げていくことが必要だし、十分可能であると考えます。

#### ※駐車場

・この運営計画では駐車場について述べられていませんが、2月2日現在、御幸公園は雪捨て場のようになっていて、20台ちょっとしか駐車できず、開館すると確実に駐車スペースの不足が懸念されます。検討が必要だと考えます。

### 6 図書館奉仕（サービス・事業）について

#### (3) 「市民の力を育む図書館」の実現に向けて

##### ○地域における読書活動の推進とコミュニティづくり（p.9）

・「図書を黒石力（コミュニティ力）を伝える媒体と位置付け」ということには大いに賛同します。図書館は図書と人を結び付けるだけでなく、地域の情報ハブとして「人と人」を結びつけることができるからです。「市立図書館を中心にコミュニティ組織やボランティア、民間事業者など多様な担い手との連携を図りながら、公共施設への配本や団体への貸出しを手始めに、地域の実情に根ざした読書活動の取組を進め、市民の力を育みます」とありますが、古い町村合併でできた黒石市は、市街地が狭く、郊外に集落が点在しており、市街地から離れた地域の交通手段がない子どもや高齢者は、市立図書館を利用しにくい状況です。図書館サービスをできるだけ市民の身近なものにし、上でのべられている市民の力を育むためには、公民館や学校図書館、福祉施設などを図書館分館と位置づけて全体をネットワーク化して一つの図書館と見立てる、島根県隠岐郡海士町の「島まるごと図書館」のサービスが大いに参考になると思います。さらに、移動図書館を導入し、きめ細かい市内全域でのサービスを実施すれば、図書館サービスをより市民の身近なものにすることができます。現在、高齢化が進む黒石市では、高齢者の引きこもりなどが大きな問題となっていますが、図書館は無料で閉館時間まで利用できる数少ない施設です。地域に図書館の分館的な施設があれば、高齢者が利用し、集まってくる同士での交

流や異年齢での交流も図られ、引きこもり防止に大きな効果が見込まれると考えます。

## Ⅱ 第3次黒石子ども読書活動推進計画

### (3) 学校における取組

#### ○市の取組（p.19）

・昨年7月に南地区学校図書館連絡協議会に招かれて講演し、その際に色々お話をうかがいましたが、黒石市の小中学校の学校図書館担当の先生方は、時間も予算も知識も経験も人手もないまま、どうやって学校図書館を運営すればいいのか、途方に暮れています。学校図書館との連携・支援は市立図書館の重要な役割です。しかし、この推進計画で取り上げられている市立図書館の取組は、残念ながら問題の本質を改善する形にはなっていないと思います。今必要なのは、五所川原市立図書館がおこなっている学校支援事業「学校図書館を応援し隊！」のような、市内全小・中学校の学校図書館を訪問し、学校図書館の環境整備や活用促進に関する情報提供、授業で使う資料提供を行い、学校図書案の活性化を目指す支援事業です。市立図書館の司書が学校を訪問して、図書の購入や廃棄の仕方、分類番号シールの張り替え、正しい排架、机の並び替え、コンピュータによる図書管理システムの活用、効果的な広報の仕方等々を指導するという具体的で実践的な支援を学校図書館は切実に必要としています。本来であれば、これは今年度までの第5次学校図書館図書整備等5か年計画において、各小中学校に学校司書が配備されていれば、かなり軽減できる問題だったのですが、各市町村に予算がついているのに、なぜかそれが執行されることはありませんでした（文科省の担当課長は非常に憤慨していました）。令和4年度から、第6次学校図書館整備等5か年計画が始まりますので、そこでの学校司書の配備とともに、黒石市立図書館が、積極的に学校図書館の支援に入って、子どもたちが読書活動に活発に取り組み、自ら学ぶ喜びを実感できるようにしてほしいと強く願いますし、そのための司書の人員確保に努めていただきたいと思います。

#### ※最後に

・市民の長年の願いがやっとかなってできる図書館です。しかし、はっきりいって市民の図書館についての関心が非常に低いように感じます。図書館利用を活発化するためには、市民が「これは私たちの図書館だ！」と当事者意識を持つことが何よりも必要であると感じます。「黒石市まちなかエリアリノベーションプラン」のワークショップには、高校生を含め、熱意あふれる市民が集まり、非常に活発な話し合いが行われ、さまざまなアイデアが生まれています。やはりここは市民の意識を高めるために、プレオープンイベントとして、ワークショップなどを行って、市民の意識を盛り上げていただきたいと思います。図書館を作り、愛し、育てるのは、なんといっても市民自身なのですから。

担当	黒石市教育委員会社会教育課図書館準備係
電話	0172-52-2111 (内線 618)
F A X	0172-52-3777
Eメール	kuro-tosho@city.kuroishi.aomori.jp